



令和元年度

福島の復興と未来に向けて

～福島再生・未来志向プロジェクトシンポジウム～

開催報告

ごあいさつ

主催あいさつ（環境省）

環境省では、福島復興に向けて除染、中間貯蔵の整備、廃棄物の処理等を進めています。地域の皆様、地元自治体、企業などの努力もあり、まだ道半ばではありますが、着実に復興が進んでいます。本当に御礼を申し上げたいと存じます。

環境省として福島の再生を進めながら、「福島再生・未来志向プロジェクト」を2018年8月から立ち上げ、脱炭素社会に向けた取り組み、資源循環への取り組み、国立公園等を踏まえた自然との共生などに取り組み始めました。福島の未来に向けた発展に、協力をしていきたいと思っています。

今回、シンポジウムを開催し、地域でどういったことが現に行われているのか、どういったことがこれから進んでいくのか、といった情報を共有する機会にしたいと存じます。

今回の取り組みは今年が第1回目でございます。来年以降も着実にやっていながら、一歩ずつ政策を重ね、具体化を目指したいと考えております。またその時には、福島県、あるいは各関係機関が協力して取り組んでいきたいと考えているところでございます。

（第1回シンポジウム開会挨拶より）

共催あいさつ（福島県）

東日本大震災から8年3カ月が経過いたしました。この間、皆様をはじめ、国内外からの温かいご支援により、インフラや新たな拠点施設の整備、ふるさとへの帰還へ向けた動きなど、本県は着実に復興への歩みを進めております。そのような中、昨年8月、本プロジェクトが始動し、これまでの環境再生の取り組みに加え、福島復興の新たなステージに向けた未来志向の取り組みが推進されておりますことは、復興への歩みをより確かなものとし、復興をさらに前に進めていく上で大変意義深いことでもあります。

福島県では、本年4月、本プロジェクトの1つとして、環境省と共同でふくしまグリーン復興構想を策定したところであり、国立・国定公園の魅力向上や自然公園間を広域的に周遊する仕組みづくりなどを通じ、公園利用者数の回復、交流人口の拡大を図り、美しい自然環境に包まれた福島の復興を進めています。

本シンポジウムを契機として、プロジェクトに関する議論が深まるとともに、より多くの方々の参画が進み、プロジェクトがさらに発展し、本県の復興の加速化につながっていくことをご期待申し上げます。

（第1回シンポジウム開会挨拶より）

福島再生・未来志向プロジェクト

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

2018年8月 環境省「福島再生・未来志向プロジェクト」チーム

基本的な考え方

- ▶ 福島県内の地元のニーズに応え、環境再生の取組のみならず、脱炭素、資源循環、自然共生といった環境省の得意分野と福島との連携を深め、福島復興の新たなステージに向けた取組を推進。
- ▶ 環境省事業を効果的に組み合わせ、また、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや広報・情報発信を通じて地元へ寄り添いつつ、分野横断的な政策パッケージを戦略的に展開。

産業創生への支援

<なりわいの復興>

政府の「福島イノベーション・コースト構想」との連携のもと

- ▶ 環境・リサイクル分野における官民連携によるプロジェクトの具体化。
- ▶ 先端リサイクル技術の実証・実践。
- ▶ 先導的なバイオマスや再生可能エネルギーの技術実証やモデル事業の推進。等

上記のプロジェクトの実施により福島新エネ社会構想の加速化にも貢献

ふくしまグリーン復興への支援

<自然資源活用による復興>

- ▶ 福島県内の自然資源、文化資源等を活かしたエコツーリズムの支援やロングトレイルの検討。



尾瀬沼ビジターセンター完成予想図

- ▶ 磐梯朝日国立公園及び尾瀬国立公園の魅力向上。等

環境省の得意分野との連携強化

環境再生・リスコミ
×
脱炭素・資源循環・自然共生

復興・再生に貢献

脱炭素まちづくりへの支援

<暮らしの復興>

- ▶ 先導的な脱炭素技術やICT技術を活用したまちづくり。
- ▶ 再生可能エネルギーの活用や脱炭素技術の導入を通じた、地域コミュニティの活性化、安全・安心の確保、高齢化社会への対応。等



復興作業に従事する方々の通勤の足

バスのシェアリング ※朝夕は通勤の足、昼間は暮らしの足

暮らしの足

営農再開に向けた環境安全としての創エネ（ソーラーシェアリング）

エコ住宅（ゼロエミッションハウス（ZEH）、直交集成板（CLT）：木質材料）

地域活性化への支援

<リスコミ・情報発信による復興>

- ▶ 放射線健康不安に対するリスクコミュニケーション。
- ▶ 地域の魅力発信や、シティープロモーションの後方支援。
- ▶ リプルンふくしま等の環境省施設の活用や、環境創造センターとの連携、原子力災害からの復興の歩みを学ぶホープツーリズムの検討。等



檜葉町における田植えイベントの様子



リプルンふくしま内観完成予想図

推進体制

- ▶ 福島地方環境事務所に、これまでの環境再生の取組に加え、「福島再生・未来志向プロジェクト」をワンストップで推進する体制を構築。

目次

I	プログラム	1
II	登壇者プロフィール	2
III	基調報告	4
	1 福島における環境の現状と課題	4
	(大原利真(国立環境研究所福島支部 フェロー))	
	2 新地町におけるスマコミ事業の展開	8
	(黒沢知子(新地町企画振興課 主任主査))	
	3 スマート都市からの地方創生まちづくりへ	10
	(藤田壮(国立環境研究所 社会環境システム研究センター長))	
IV	福島再生・未来志向プロジェクトの概要	16
	(峯岸律子(環境省環境再生・資源循環局特定廃棄物対策担当参事官室 参事官補佐(総括)(併任)福島地方環境事務所 調整官))	
V	福島再生・未来志向プロジェクト事例報告	19
	1 産業創生への支援	19
	(飛田実(DOWA エコシステム(株)代表取締役社長))	
	2 地域活性化への支援	22
	(森田重光(環境省福島地方環境事務所 渉外広報課長))	
VI	パネルディスカッション	25
	セッション1 現在進めている取り組みの紹介	27
	伊藤泰夫氏(福島イノベーション・コースト構想推進機構)	27
	遠藤秀文氏(株式会社ふたば)	30
	須藤 治氏(福島相双復興推進機構)	32
	武藤 淳氏(福島県観光物産交流協会)	34
	セッション2 福島の復興と未来に向けた課題	36
	セッション3 福島の復興と未来に向けた今後の方向性	39
	セッション4 福島再生・未来志向プロジェクトに対する期待	44
VII	アンケート結果	49